

自己評価報告書（令和2年度）

臨床福祉専門学校

令和3年6月1日作成

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育成人材像になっているか <input checked="" type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか <input checked="" type="checkbox"/> 理念等に応じた課程（学科）を設置しているか <input checked="" type="checkbox"/> 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者、関連業界等に周知しているか <input checked="" type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会等の要請に的確に対応させるため、適宜、見直しを行っているか	2	・学校閉鎖まで数年という状況に差し掛かった事から、在籍している学生を卒業に導くことを重要課題としている。	・令和4年3月の閉校に向けては在校生全員の卒業認定が必要であることから、長期休学者の対応が挙げられる。	・復学に向けて、保護者を交えて状況確認を随時行う。	・令和2年度経営方針（KPI）
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 課程（学科）毎に関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程、授業計画（シラバス）等の策定において関連業界等からの協力を得ているか	1	・平成30年度限りで職業実践専門課程の認定を取り消した。故に、有識者が集う会議も開催されていない。	・実習などを通じて把握されている現在の学生傾向の問題点は共有されるものの、今後の専門職の在り方や医療・福祉分野などの将来展望という観点までは踏み込んでいない。	・実習を行う前の実習教育者会議等で、現場指導者と共通の認識を図る。	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 続き	<ul style="list-style-type: none"> ■専任・兼任（非常勤）にかかわらず教員採用において関連業界等からの協力を得ているか ■学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか □教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用は実務経験を重視し行っているため、関連業界の協力なくしては成り立たない。 ・言語聴覚療法学科及び理学療法学科では、学外実習を行う必要があるため、多くの施設に協力を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連業界と学校との繋がりという観点では有職者が集う会議も行っていないために、やや希薄である。その為、個人間での繋がりに頼らざるを得ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連業界とは実習教育者会議等で関係性を維持する。 	
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<ul style="list-style-type: none"> ■理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか ■特色ある職業実践教育に取り組んでいるか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、患者など多彩なゲストスピーカーを授業に招聘している。 ・現場経験豊富な非常勤講師の採用を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で、例年通りの授業形態の実施が困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の水準を落とさないよう、可能な限りハイブリット型（遠隔・対面）授業を実施する。 	
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<ul style="list-style-type: none"> ■中期的（3～5年程度）視点で、学校の将来構想を定めているか ■学校の将来構想を教職員に周知しているか ■学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・数年後に学校を廃止することは学園の方針で決定しており、関係者には周知済である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在学園では専門職大学が開学した事により、学園の将来構想との連動も留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に専門職大学開学に大きく関与する本校にとっては、その動向について教職員はもちろん関連業界にも逐一状況を報告する必要がある。 	

2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	<p>■運営方針を文書化するなど明確に定めているか</p> <p>□運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか</p> <p>■運営方針を教職員等に周知しているか</p> <p>□運営方針の組織内の浸透度を確認しているか</p>	3	<p>・学園の理事会において運営方針の決済を得て、教職員に周知している。</p>	<p>・在校生の卒業という確固たる方針はあるが、閉校＝教職員のモチベーション低下に直結する。</p>	<p>・特に募集定員を達成していた理学療法学科の教員の将来的な雇用の確保は最優先に検討すべきである。</p>	

2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中期計画（3～5 年程度）を定めているか ■ 単年度の事業計画を定めているか ■ 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか ■ 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか □ 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容を明確にしているか 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園全体で中期計画及び事業計画を定め、姉妹校を含めた各校で中身を共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画フォームは財務面に焦点をあてた内容であるため、「理念の達成」という趣旨には乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の「中期計画」の策定と共有は、理事長や学園本部との意思形成のための場であり、その元となる学校運営としての学校目標と事業計画を別途計画するのが本来は望ましい。 	

2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ■理事会、評議員会は、寄附行為に基づき適切に開催しているか ■理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか ■寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか 	4	<p>・理事会と評議員会は、寄附行為に基づき定期開催し審議している。理事会は必要な審議を行い、適切に議事録を作成している。寄附行為は、必要が生じたときに理事会の決裁を受け、東京都に変更の手続きを行っている。</p>			

<p>2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか</p>	<p>■学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか <input type="checkbox"/>現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか <input type="checkbox"/>各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/>会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか ■会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか <input type="checkbox"/>組織運営のための規則・規程等を整備しているか ■規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか <input type="checkbox"/>学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか</p>	<p>2</p>	<p>・学校運営という視点で最低限の組織形態は保っている。学科・学生も少なくなり、会議体は実質、役職者により方針を確認する運営会議とその情報を共有する教職員会議が中心となっている。</p> <p>・規則、規定に捕らわれず、コロナ対応として臨機応変な判断を行っている。</p>	<p>・組織図の作成をしていない。</p> <p>・臨機応変なコロナ対応を行っているが、学科によってバラツキがあり、学校として統一性がない。</p> <p>・学校の閉鎖に向けて退職者が増加していることから、組織体制を構築するための職員そのものが不足する可能性がある。</p>	<p>・昨年柔道整復学科が廃止となり、限られた組織・職員のみでの運営を余儀なくされることから、細かい組織図はあえて作成しない予定である。</p>	<p>・会議録</p>
---------------------------------	---	----------	---	---	--	-------------

2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか <input checked="" type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input checked="" type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	2	<ul style="list-style-type: none"> ・基準、手続き共に明文化されたものはない。教員は学科による候補者選定、一方事務職員は適宜必要と思われる職員の採用方法を採用している。 ・給与を含めた人事関係の諸規定は、就業規則に記載があるものの規定が古いため現状とそぐわない部分が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員、事務職員共に手続きとして規定化されたものではなく、慣例的な採用方法がとられている。この場合、採用ありきという性格が強く、学園（学校）方針を共有する教職員の採用ができているかどうかは疑問である。 ・採用基準が明確でないために、職員間での処遇の差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の採用は学校単体でなく、学園として行われているので、今後は学園としての統一基準や手続きが策定されることが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給与規定

2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<p>■教務・財務等の業務処理において、意思決定システムを整備しているか</p> <p>■意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか</p> <p>□意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか</p>	2	<p>・月 2 回行われる役職者の運営会議の場で、方針を決定している。</p> <p>・大学との共同運営に関しては月 1 回の合同会議で方針を伝え、齟齬がないか確認している。</p>	<p>・大学との合同会議の立ち位置が明確でない。</p>	<p>・同じ校舎を使用する大学とは意思疎通が不可欠であることから、合同会議を意思決定の場として位置づける。</p>	

2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<p>■学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか</p> <p>■情報システムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか</p> <p>□学生指導において、適切に学生情報管理システムを活用しているか</p> <p>□データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか</p> <p>■システムのメンテナンス及びセキュリティー管理を適切に行っているか</p>	2	<p>・現在、経理部門のみパッケージソフトのシステムを導入している。システムが導入されている部門では、学園間の情報共有・意思決定に活用されている。</p> <p>・コロナで授業実施が困難であることから、クラス一斉メール・ZOOMを駆使し、情報提供を行っている。</p>	・特にリモート機能については、教職員が使いこなせていない。	・テレワークや会議も可能な限りリモートを推進し、職員もこの環境に慣れるように努める。	

3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<ul style="list-style-type: none"> ■教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか ■職業教育に関する方針を定めているか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針に関しては、学則・学生便覧・ホームページ上で定めている。 ・養成施設である以上、職業に従事する為の必要な知識・技術は授業の一環で行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校理念や教育方針の学内を含めた認知度の低さが課題である。 ・卒業までに一定水準のレベルに達しているかの判断基準となるものがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・項目1・2で定める理念や運営方針、組織について、教職員への周知、徹底を行う。 ・就職先へ調査を含めた評価の実施を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学則・学生便覧
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<ul style="list-style-type: none"> ■学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか □教育到達レベルは、理念等に適合しているか ■資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか ■資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・学科のポリシーとして、即戦力養成・現場主義を掲げていることから、それを到達目標とし、授業時に指導・支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目のシラバスにおいても理念教育方針に基づいた到達目標が明示されていることが理想であるが、各科目担当者に一任している為、統一感がない。 ・学科独自の3ポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）を作成していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本来ならば、教育到達レベルを示した学校独自のシラバスや3ポリシーを長期間検討し、作成する必要があるが、学校閉鎖の方針が決まっている事から、現状の運用を維持することとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス

3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<p>■教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか</p> <p>■議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか</p> <p>■授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか</p> <p>■授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか</p> <p>■修了に係る授業時数、単位数を明示しているか</p> <p>■授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか</p> <p>■授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか</p> <p>■授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか</p> <p>□職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか</p>	3	<p>・各学科、指定規則に準じて各分野の科目設定を行っている。総授業時間や単位数に関しては学則に明記している。また、指定規則の範疇以外にも独自分野を定め、教育内容の工夫を行っている。</p> <p>・それぞれの専門領域に特化して担当を決め、内容によっては現場指導者を招き、専門的な知識を深める為の工夫を行っている。よって、実践力、専門性を高める事を最も重要視したカリキュラムの内容であり、講義実習等も適切に配分している。</p>	<p>・職業実践専門課程の認可を取り下げた事から、教育課程編成委員会は開催せず、現場指導者との連携は行っていない。</p> <p>・現場指導者を交えての教育は専門性を高める為のメリットはあるが、コスト面の問題がある。</p>	<p>・コスト面に関しては、所属学科の学科長を含め、学園の財政状況を把握する必要があり、そのための周知方法を検討する。</p>	<p>・教育課程編成委員会細則</p> <p>・学則（教育課程表）</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	<input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか <input checked="" type="checkbox"/> 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか <input checked="" type="checkbox"/> 教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか	2	<ul style="list-style-type: none"> ・学校閉校の兼ね合いで、職業実践専門課程は認可を返上した。 ・授業計画については、それぞれの科目担当者にシラバスの作成を依頼している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容（レベル）は科目担当者に完全に依存という状態であり、チェック体制が全く構築されていない。また、本来求められる科目到達度・達成度について、記載方法に統一制がない。 ・カリキュラムポリシーを作成していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目のシラバスは科目担当者まかせではなく、教育内容や成績評価方法に問題がないか、学科長を中心としたチェック体制を設ける。その時間的余裕の確保の為に、暦・時間割の作成・担当講師の選定等、計画性を持って構築する必要がある。 ・閉校まで数年であり、3ポリシーの作成には今更感があり、現状を維持せざるを得ない。 	
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教育効果については臨床実習の場で、施設と意見交換や評価について連携をとっている。また、対面授業の担当者も業界関係者が多いことから、現場目線の的確なアドバイスを頂いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の意見を反映する機会が、就職先を含めた卒業生や同窓会のみとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・閉校までの間は、基本的には特段新たな取り組みを行わず、今までの内容に準じる形式となる。 	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<input type="checkbox"/> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか <input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか <input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	2	<p>・キャリア教育に特化した方針は定めていないが、授業の一環で網羅している。具体的には職業人としての自覚・態度等マナー教育やコミュニケーション能力の指導・実習指導者との意見交換・評価、入学早期の現場見学・卒業セミナーを実施している。</p>	<p>・キャリア教育自体の認識が薄く、方針は決められていない。卒業セミナーに関しては、S T 学科・P T 学科は定期的に行っている。効果検証については、卒業セミナーに参加する一部卒業生に留まり、就職先等の評価は行っていない。</p> <p>・コロナの影響で卒業セミナーの開催が困難である。</p>	<p>・人間形成、職業理解、将来設計がキャリア教育として位置づけられているが、卒業生に対する卒業サポートを活用して、在学時の教育内容を含めた効果の検証が必要である。</p>	
3-9-4 授業評価を実施しているか	<input type="checkbox"/> 授業評価を実施する体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか <input type="checkbox"/> 授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか <input type="checkbox"/> 教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	1	<p>・現在在校生は卒業までの残りの教育課程が実習中心である事から、令和 2 年度のはコスト削減も含め、授業アンケートは取りやめた。</p>	<p>・対面授業がある夜間部 3 年生は授業アンケートの実施も検討したが、コロナ、コスト面の影響により断念せざるを得ない。</p>	<p>・学生とのコミュニケーションツールが一方的にならないように、相談室等の案内の周知徹底を行う。</p>	

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<p>■成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか</p> <p>■成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか</p> <p>□入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか</p>	2	<p>・成績に関する認定基準は学則に定めているが、各学科の詳細の規定を学生便覧で明記し、年度初めのガイダンスで学生に周知している。最終的な成績判定は基準と照らし合わせ、会議で決定している。</p> <p>履修免除は行っていない。</p>	<p>・学校が閉校するという背景の中、最終学年に関しては留年が不可能なので、成績不良者等の対応にどう向き合えば良いか課題である。</p> <p>・緊急事態宣言による学校休業期間の時間割調整やその運用が課題である。</p>	<p>・規定上の進級基準とは異なる判断をしてでも、成績不良者や休学者と向き合う必要がある。</p> <p>・丸ごと休業しまうと、年内に指定のカリキュラムが消化できないことから、遠隔授業を試行錯誤しながら実施する。</p>	
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	<p>■在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか</p>	2	<p>・敬心学園で行われている学術研究会に参加している。</p>	<p>・学術研究会を統括する部署そのものの存在意義が不透明。よって教職員の参加が限りなく少ない。</p>	<p>・学園としての学術研究会の目的や意義を明確にする事とする。</p>	

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<p>■取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか</p> <p>■資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか</p>	3	<p>・入学試験時に資格取得の目的、職業の理解を念入りに確認し、入学後早期に仕事の理解を含めた総論部分の授業や職場見学を授業の一環として取り入れている。また、職業教育として、授業に網羅している。</p>	<p>・入学後、早期の段階で退学をする学生が多数いる。原因は様々だが、中には職業理解をしておらず、目的を喪失し、進路変更を余儀なくされるパターンも少なからずある。</p>	<p>・職業教育という観点を実技授業の中で、より深く意識づけることによって学生の将来像のイメージを持たせる。</p> <p>・実習前教育を強化する。</p>	
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<p>■資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか</p> <p>■不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか</p>	3	<p>・担任を置き、個別指導を実施。定期的な学内模擬試験・業者模試・正規の授業外の補講の実施している。</p>	<p>・担任によって指導体制にバラつきがある。</p> <p>・最終学年に関する不合格者については、留年が不可であり、その代替案の検討を行う。</p>	<p>・今後は学校閉校に向けて卒業基準・進級基準に必ずしも準ずることない柔軟な対応を取る。</p>	

3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<p>■授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか</p> <p>■授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか</p> <p>■教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか</p> <p>■教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか</p> <p>□教員の採用計画・配置計画を定めているか</p> <p>■専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比など教員構成を明示しているか</p> <p>■教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか</p>	4	<p>・養成施設指定規則に則り、各科目を教授するのに相応しい教員の確保に努めている。専任教員に関しても、知識・技術・技能のレベルを上げる為に、業界団体の研修会を中心に積極的に参加している。教員の採用は、指定規則に定められた、実務経験年数を遵守している。</p> <p>・教員の採用計画等は定めていないが、指定規則に則った、養成施設として義務付けられている専任教員数は順守している。教員構成については、漏れなく所轄庁に報告している。</p> <p>・各教員の担当しているコマ数・時間数を把握するよう管理表を作成している。</p>	<p>・各教員は分野別に授業を担当しているが、完全に個人に依存している状況である。</p> <p>・専任教員の標準担当コマ数が妥当かどうか、学科長を中心とした管理体制の徹底が必要とされる。</p>	<p>・指導方法や教育方法については、研修会に積極的に参加して、スキル向上に努めている。しかし、実際の講義内容や成績評価に関して、各教員に依存している傾向が強いため、チェック体制の意味で学校長、学科長による授業見学等、何かしらの手段を構築する必要がある。</p> <p>・専門領域があるとはいえ、人件費は予算に直結することから、専任教員コマ数は上層部を中心に検証が必要である。</p>	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ■教員の専門性、教授力を把握・評価しているか ■教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか ■関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか ■教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・厚労省が主催している教員講習会には、毎年採用まもない教員を極力派遣するよう心掛けている。その他、各種協会の学会や勉強会も、その参加率は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修は、特定の教員のみでなく、万遍なく全ての教員が参加するように、学校としての支援の構築の検討を行う。 ・コロナによる研修の中止が相次いでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修については、個人判断で各教員が参加しているものの、本来はキャリア年数や担当科目等に応じた参加指針のようなものがあって然るべき。 	
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか □教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか ■学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか □授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか ■専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教員組織における業務分担、責任体制について、規定等で定めては無いが、学科長中心に構成される運営会議が最高意思決定機関となっている。 ・専任教員の間では、各科目に関する連携・協力体制がとれているが、非常勤講師との連携は初講日挨拶等、一部に限られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の非常勤講師は全く専任教員と話をする機会がないという事が多々ある。 ・非常勤講師と教育的な中身、学生対応について本気で連携を図るならば、設備上の問題（教員室が離れている）から解決する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての学科において、教員室内に非常勤講師の控室を設けた。それにより、コミュニケーションの機会が大幅に改善した。 	

4-13 就職率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<ul style="list-style-type: none"> ■就職率に関する目標設定はあるか ■学生の就職活動を把握しているか ■専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか ■関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか ■就職率等のデータについて適切に管理しているか 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定は学校方針の中で定めている。 ・学生の就職活動は担任の許可制をとっており、その行動についても学校で把握している。 ・内定が決まった学生は所定のフォーマットにて、学校への報告を義務付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により就職説明会は開催不可能となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業からのリモートでの説明会案内等、積極的に学生へ周知。また、地域別の求人数を定期的に周知する工夫を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・求人票 ・求職先一覧表 ・内定報告書

4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	<p>■資格・免許取得率に関する目標設定はあるか</p> <p>■特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか</p> <p>■合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか</p> <p>■指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか</p>	3	<p>・資格・免許取得率は全学科 100%を目標としているが、最低でも全国平均以上は維持する為に、下記の取組を行っている。</p> <p>・言語聴覚療法学科：模擬試験、国試前直前講座</p> <p>・理学療法学科：年末セミナー・業者模試・教育課程変更を想定した初年次教育の導入を行っている。</p> <p>・毎年の結果について、すべて数値化している。</p> <p>・合否対象者の選定や問題の傾向の分析に留まる。</p>	<p>・既卒不合格者に対する学校としての措置が不明瞭である。</p> <p>・いずれの学科も工夫をこらして学習支援の機会を設けているものの、最終学年の限られた時間内での実施が中心となっている。</p> <p>・将来的な学校閉鎖の兼ね合いから、学生のレベルが例年と比べて低い。</p>	<p>・既卒不合格者については、模擬試験の参加や聴講等、一定の取り組みとしてあるが、成果があるのか検証が必要である。</p> <p>・理学療法学科は下位の学年からの国試対策の本格的導入を行う。</p>	<p>・国家試験合格率一覧</p>

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか <input type="checkbox"/> 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	1	<p>・PT、ST 学科ともに卒後の実態把握を目的とした施設訪問は行っていない。両学科ともに卒業生の就職先に実習依頼を出すことが多く、そのため実習訪問時に卒業生の状況を把握できる場合もある。また、卒後研修の場であるSLHT 研究会やりんご会を通して把握できることもあるが全卒業生ではない。</p>	<p>・卒業後の入職、転職等を追跡することは困難で、把握できるのはごく一部であると思われる。同窓会やSLHT 研究会、りんご会と卒業生の情報を共有できるか検討する必要があるが、それらの参加者が非常に少ない。</p>	<p>・同窓会において、卒業生との関係構築を強化できないか検討を行う。</p>	<p>・臨床福祉ジャーナル</p>

5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■就職など進路支援のための組織体制を整備しているか ■担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか ■学生の就職活動の状況を学内で共有しているか ■関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか ■就職説明会等を開催しているか □履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか ■就職に関する個別の相談に適切に応じているか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設を中心に就職説明会への参加を案内している。 ・就職に関する個別の相談は、各学科の教員が対応している。学生の就職活動については、各学科の教員の許可制を採用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・閉校後の卒業生に対する就職情報の提供方法の検討を行う。 ・コロナの影響による就職説明会が中止となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ学科を開講している姉妹校の就職システムを活用する。 ・企業からのリモートでの説明会案内等、積極的に学生へ周知を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・求職先一覧表 ・内定一覧表

5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<p>■中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか</p> <p>■指導経過記録を適切に保存しているか</p> <p>■中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか</p> <p>■退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか</p>	4	<p>・管理表を作成し、目標数を掲げるとともに、現状の数字を毎月の運営会議で報告している。</p> <p>・必ず担任（学科長）の面談を経る。その際の記録（理由書）を保存している。</p> <p>・大学と共同で学生相談窓口を整備した。</p>	<p>・退学者の大半は実習中止によるものである。</p> <p>・音信不通者の処理の検討を行う必要がある。</p>	<p>・実習中止の学生には留年の選択肢はない為、学校として割り切って、学則に則り退学勧告をする。</p> <p>・音信不通者には除籍通知を送り、在籍管理を明確にする。</p>	<p>・退学届・休学届理由書</p> <p>・除籍通知</p>

5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<p>■専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか</p> <p>■相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか</p> <p>■学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか</p> <p>■相談記録を適切に保存しているか</p> <p>□関連医療機関等との連携はあるか</p>	3	<p>・学内に学生相談室を設置し、カウンセリングを担当している。学生には、学生便覧と掲示にて周知している。</p> <p>・クラス担任制によって学生の動向を把握しながら学習や学校生活等の個別相談が可能な体制をとっている。</p>	<p>・学生相談室の実施状況の共有がなされていない。</p> <p>・学内にハラスメント委員会も形式上は組織されているが、運営実績がないため、定期的な活動を提案したい。</p>	<p>・学生のプライバシーを保証するため、全ての相談情報を開示するのは難しいが、今後は学生の個人情報に配慮しながら学生相談室・学科・事務局間での連携が必要と思われる。</p>	<p>・学生相談室報告書</p> <p>・学生便覧（掲示物含）</p>
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	<p>□留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか</p> <p>□留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか</p> <p>□留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか</p> <p>□留学生に関する指導記録を適切に保存しているか</p>	1	留学生の受け入れはない。			

5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<p>■学校独自の奨学金制度を整備しているか</p> <p>■学費の減免、分割納付制度を整備しているか</p> <p>■大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか</p> <p>□全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか</p> <p>■公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか</p> <p>□全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか</p>	3	<p>・学校独自の特待生制度や減免制度を整備し、公的な奨学金や民間の奨学金と併用して学生の経済的支援を実施している。</p> <p>・学費は一括全納を原則としているが、分割納付の相談にも応じている。</p> <p>・コロナの影響による低所得者には、国の補助金案内を通知している。</p>	<p>・全学生への情報提供は実施できているが、本校は成人学生が多数のため、保護者に対してまでは情報提供を実施していない。</p> <p>・補助金の案内には対象の学生を推薦することが出来たが、中には対象となり得たが、その存在を理解しようとする学生がいた。</p>	<p>・生活が苦しい学生には積極的に奨学金や補助金の案内を周知する事とする。</p>	<p>・奨学金一覧表</p> <p>・学生募集要項</p>
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<p>□学校保健計画を定めているか</p> <p>■学校医を選任しているか</p> <p>■保健室を整備し専門職員を配置しているか</p> <p>■定期健康診断を実施して記録を保存しているか</p> <p>■有所見者の再健診について適切に対応しているか</p>	3	<p>・毎年4・5月に学生の健康診断を実施している。実習や就職時には、診断の結果に基づいて健康診断書を発行している。</p> <p>・大学と共同で専属の看護師を配置している。</p>	<p>・コロナ対策として、その予兆として症状が出ている学生に対する、初期対応の仕方の統一性を図る。</p>	<p>・コロナ対応マニュアルを共有する事とする。</p>	<p>・コロナ対応マニュアル</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-19-2 続き	<input type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育を行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 近隣の医療機関との連携はあるか	2	<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザや感染性胃腸炎などを予防するポスター等の掲示を行っている。 ・ノロウイルスの対策として備品を充実させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応の必要性がありながら、近隣の医療機関との連携体制がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の対応マニュアルの再整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応マニュアル
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 遠隔地から就学する学生のために寮を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか <input type="checkbox"/> 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学校独自の学生寮は持たないが、学園で複数の民間業者と契約し、指定寮としており、入学希望者には最新情報を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・募集停止をしている為今後の周知は不要である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・提携学生会館パンフ
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか <input type="checkbox"/> 大会成績など実績を把握しているか	1	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の学科において、特段クラブ活動を行っていない。 			

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input type="checkbox"/> 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか ■ 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか ■ 緊急時の連絡体制を確保しているか	2	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人も多い事から特段保護者との連携は図っていない。 ・学力不足・心理面等の問題解決にあたっては各学科の判断により電話対応等を実施している。 ・定期的な成績表の送付。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の状況把握は中退抑制においても重要な点であり、保護者との積極的な連携は必要性を感じるが、学生層の違いもあって、他学科を対象を広げることは容易ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対して必要な情報とは何か、保護者との連携によって学校が何をしたいのかという議論を立ち上げるところから着手する必要がある。 	

5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<p>■同窓会を組織し、活動状況を把握しているか</p> <p>□再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか</p> <p>□卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか</p> <p>■卒業後の研究活動に対する支援を行っているか</p>	3	<p>・同窓会は幹事会を中心に運営している。毎回の幹事会には事務局職員も同席し活動状況を共有している。</p> <p>・再就職・キャリアアップについては、ホームページで情報提供を行うにとどまっている。</p> <p>・各学科の卒後の研究活動は学科ごとに行われており、教室の提供のほか専任教員が運営に関わるなどしている。</p>	<p>・設置している全学科の募集停止という背景の中、閉科後の同窓会の在り方をはじめ、卒業生に対する支援体制に関し、根本的な検討が必要となっている。</p>	<p>・今後の同窓会の在り方については、同窓会（幹事会）と学校が、協働であり方を検討しなければならない。</p>	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<p>□関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか</p> <p>□学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか</p>	1	<p>・理学療法士会・言語聴覚士会が主催する各種研修の会場提供を積極的に行っている。</p>	<p>・現時点では、まだ業界・団体とそこまでの関係が構築出来ていないと言えず、チェック項目に記載されている取り組みを実現させることは困難と言わざるを得ない。</p>		

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<p>■社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか</p> <p>□社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか</p> <p>■図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか</p> <p>□社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか</p>	3	<p>・本校はもともと社会人対象の学校として開校した背景があり、かつ言語聴覚療法学科については大卒対象学科であることから、特段「社会人向け」という視点を持たずに、学校運営をおこなっているところである。</p>	<p>・一言で社会人と言いつつも、主婦層などより弾力的な履修形態を望む層の志願者が増加している。しかし、養成施設として厚労省が定める規定は遵守しなければならず、弾力対応の幅にも限界がある。</p>	<p>・特段年齢が高い学生に安心して学生生活を送れるよう、積極的な求人情報の提供を行う。</p>	

6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
<p>6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか</p>	<p>■施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか ■図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか ■図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか ■学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか ■施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか ■手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか ■卒業生に施設・設備を提供しているか ■施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか ■施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか</p>	<p>4</p>	<p>・校舎を大学に譲渡する為に、校舎のあらゆる改築工事を実施している。 ・大学と共同で新たなPCルームを設置している。 ・施設、設備点検は委託している保守業者が定期的に行っている。改善報告については、予算内で対応を行っている。</p>	<p>・築30年以上経過した建物に対する点検や修繕に関しては、予算化も含めた中期的な計画が不十分である。 ・日常的な点検業務は委託会社に任せている部分が多く、職員と業者との連携が不十分である。 ・修繕、保守予算が例年不足がちのため、法令遵守できていない部分がある。</p>	<p>・今後は業者、学校の施設管理者とで連携し、建物総合管理を強化する必要がある。そのためにも校舎の現状把握し、毎年、中期的な修繕計画を更新していくことが必要と思われる。 ・厳しい財務状況ではあるが、学生サービス向上のため、最新の機器への更新を検討する必要がある。</p>	<p>・自己点検総括表 ・図書目録 ・ビル管理会社による定期報告書</p>

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<p>■学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか</p> <p>■学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか</p> <p>□関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか</p> <p>■学外実習について、成績評価基準を明確にしているか</p> <p>■学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか</p> <p>■学外実習等の教育効果について確認しているか</p> <p>■学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか</p> <p>■卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先等に行事の案内をしているか</p>	4	<p>・学科ごとに学外実習の手引き等を整備して、適切に運用できるよう学生に対して説明会を行って、周知徹底している。</p> <p>・実習についての評価基準は、学科ごとに明記されており、学科ごとに行う実習報告会でフィードバックを行って、実習の成果を確認する機会を設けている。</p>	<p>・関連業界との連携をより強化し、企業研修等の必要性を再検討する。</p> <p>・今までは過去の関係性も重視しつつ、遠方の実習地も視野に実習を行っていたが、一方で学生の経費負担が大きい。</p> <p>・コロナの影響により、実習教育者会議及び、就職説明は中止となった。</p>	<p>・関連業界との連携による企業研修等の実施を検討する。</p> <p>・今後は学生数も低下していくことから、遠方の実習地に対して見直しを検討する。</p> <p>・実習中止の学生は、専任教員による学内実習で対応する。</p>	

6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<p>■学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備しているか</p> <p>■施設・建物・設備の耐震化に対応しているか</p> <p>■消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか</p> <p>■防災（消防）訓練を定期的実施し、記録を保存しているか</p> <p>□備品の転倒防止など安全管理を徹底しているか</p> <p>□教職員・学生に防災研修・教育を行っているか</p>	3	<p>・避難訓練を実施し、教職員の危機管理向上及び、学生の危機意識向上を図っている。</p> <p>・消防点検に関しては法令に則り毎年実施し、消防署に届け出ているが、修繕箇所が多く、改善箇所を完全に補修出来ない問題がある。</p> <p>・また、防災に関する学内への情報提供や研修も十分ではない。</p>	<p>・防災計画による安全管理は急務であるが、学内で安全管理の組織体系が出来ていないということもあり、整備されていない。</p> <p>・消防設備に関して早急に修繕・改修を実施する必要がある。</p> <p>・転倒防止措置や非常用蓄電装置の導入など、学生の防災への備えが不十分である。</p>	<p>・学内の安全管理組織体制を確立し、学校防災マニュアルの整備・防災備蓄用品の拡充を早急に着手する必要がある。</p> <p>・消防設備に関しては消防署から指摘のあった項目はもちろんのこと、更新時期等もチェックして、改善のための予算を確保して早急に修繕・改修を実施する必要がある。</p>	
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<p>□学校安全計画を策定しているか</p> <p>■学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか</p> <p>■授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか</p>	3	<p>・学内における事故等に関する安全管理体制は学内での組織体系が出来ていないということもあり、十分ではない状況であるが、緊急対応マニュアルを作成した。</p> <p>・防犯対策としては警備会社に 24 時間警備を委託している。</p>	<p>・コロナ対応について、感染者が出た場合（職員及び学生）の対応について統一化を図る。</p>	<p>・医者の見解におけるコロナ緊急マニュアルを教職員に周知し、特に初期対応について、共通見解を持つ。</p>	<p>・緊急対応マニュアル</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 続き	<p>■薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか</p> <p>□担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか</p>	3	<p>・学内の実習室には実験用の薬品を保管しているが、鍵付きのキャビネットにて厳重に管理し、定期的に在庫管理も実施している。</p>	<p>・学外実習等の安全管理に関しては、巡回指導の担当教員に実習先との細やかな連絡体制は十分とは言えない状況である。</p>	<p>・学外実習等の安全管理のため、各学科の巡回指導の担当教員と事務局と実習先との細やかな連絡体制を常に維持できるようなスキームを検討する必要がある。</p>	

7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	1	・全学科募集停止をしている。			
7-25-2 学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	<input type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか <input type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか <input type="checkbox"/> 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか	1	・全学科募集停止をしている。			

7-25-2 続き	<input type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか <input type="checkbox"/> 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか					
-----------	---	--	--	--	--	--

7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考 基準を明確化し、 適切に運用して いるか	<input type="checkbox"/> 入学選考基準、方法は、 規程等で明確に定めている か <input type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等に 基づき適切に運用している か <input type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確保 するための合否判定体制を 整備しているか	1	・全学科募集停止をして いる。			
7-26-2 入学選考 に関する実績を 把握し、授業改善 等に活用してい るか	<input type="checkbox"/> 学科毎の合格率・辞退率 などの現況を示すデータを 蓄積し、適切に管理してい るか <input type="checkbox"/> 学科毎の入学者の傾向に ついて把握し、授業方法の 検討など適切に対応してい るか <input type="checkbox"/> 学科別応募者数・入学者 数の予測数値を算出してい るか <input type="checkbox"/> 財務等の計画数値と応募 者数の予測値等との整合性 を図っているか	1	・全学科募集停止をして いる。			

7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<p>■学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか</p> <p>■学納金の水準を把握しているか</p> <p>■学納金等徴収する金額はすべて明示しているか</p>	4	<p>・首都圏の養成校の学納金水準を把握した上で、本校の教育上必要な経費を賄うに足る学納金を算定している。最終的には学園理事会にて審議・承認の上、決定している。</p> <p>・学納金額は、医療系他校と比較すると平均値以下に設定されているが、教育環境の充実に支障をきたすことなく妥当であると考ええる。</p> <p>また、徴収金額は、募集要項およびホームページに明示している。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ ・募集要項
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	<p>□文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか</p>	1	<p>・全学科募集停止をしている。</p>			

8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<p>■応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか</p> <p>□収入と支出はバランスがとれているか</p> <p>□貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか</p> <p>■消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか</p> <p>■設備投資が過大になっていないか</p> <p>■負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか</p>	3	<p>・必要な設備投資は行っており、高額な設備投資については、長期設備計画を策定の上、段階的に進めることにしている。負債比率・負債償還比率ともに、設置基準の範囲となっている。</p> <p>・学生数の減少に伴い、収支差額はマイナスとならざるを得ない。</p>	<p>・次年度は1学年のみであるので、さらなる収支差額はマイナスになると予想する。</p>	<p>・大学の完成年度に向けて、収支差額はマイナスとなっても可能な限り設備投資を行う。</p>	
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<p>■最近3年間の収支状況（消費収支・資金収支）による財務分析を行っているか</p> <p>■最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか</p>	3	<p>・年度初め及び年度中に主要な財務比率状況を校長会等の幹部会議で確認している。</p>	<p>・主要な財務比率状況については、教職員の管理職層にまで広げ、収支意識の強化に努める必要がある。</p>	<p>・財務分析に基づいた予算・収支計画の策定及び、その執行体制を整備する。</p>	<p>・予算書及び決算書</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	<ul style="list-style-type: none"> ■最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか ■キャッシュフローの状況を示すデータはあるか ■教育研究費比率、人件費比率の数值は適切な数值になっているか ■コスト管理を適切に行っているか ■収支の状況について自己評価しているか ■改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・稟議制度により、2社以上の見積もりを行い、適正な支出額の把握に努めている。必要な財務改善が発生した場合は、翌年の予算編成方針に反映させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・更新契約については、定期的な見直しを行い、コスト管理を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の集中購買も視野に入れ、コスト管理に努める。 	

8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか ■予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか 	3	<p>・中期事業計画を年度の予算編成方針に反映させ、予算編成要領に沿って明確な予算編成に努めている。また、予算統制標準規程に基づき、予算会議において、各予算単位の予算原案を審議、学園経営会議で原案を決定、5月の理事会・評議員会で審議決定している。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・資金収支内訳表 ・消費収支内訳表
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ■予算の執行計画を策定しているか ■予算と決算に大きな乖離を生じていないか ■予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか ■予算規程、経理規程を整備しているか ■予算執行にあたってチェック体制を整備するなど適切な会計処理を行っているか 	4	<p>・予算執行については、予算統制標準規程の第6章「予算の実行」・第7章「予算実績の対照及び再分析」に基づき実行している。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・経理規程 ・予算統制標準規程

8-30 監査

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか <input checked="" type="checkbox"/> 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか <input checked="" type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	2	<p>・本学園の寄附行為第 16 条に「監事が財産の状況を監査し、毎年会計年度終了後、2 ヶ月以内に理事会及び評議員会に提出する」とあり、これを方針としている。</p> <p>・公認会計士による外部監査を行い、財務経理グループ長の立ち合いの下、監事監査を受ける。監事は、監事監査意見書を作成し、評議員会、理事会において報告している。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・理事会議事録 ・決算書

8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■財務公開規程を整備し、適切に運用しているか ■公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか ■財務公開の実績を記録しているか ■公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・本学園は、事業概況と財務状況について、閲覧希望者に資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表および次年度予算書の開示をする方針である。 ・各校のHPにて、財務諸表を公開している。 			<ul style="list-style-type: none"> ・財務公開規程

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
<p>9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか</p>	<p>■関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか <input type="checkbox"/>学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか ■セクシュアルハラスメント等の防止のための方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用しているか ■教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談窓口を設置しているか <input type="checkbox"/>教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか</p>	<p>2</p>	<p>・各養成施設指定規則を順守し、各種申請・届出は遺漏なく行っている。</p> <p>・学内の各種規程は全く体系化されておらず、過去のものも含め規程類が散逸状態にあるものもある。</p> <p>・ハラスメントやコンプライアンスなど学校組織として必要不可欠と言える案件に関する規程は最低限備えている。</p>	<p>・学校としてどのような規程を整備すべきかの体系がまず把握・共有されていない。</p> <p>・ハラスメントやコンプライアンスに関する理解が深まっているとは言えず、整備が体系的に取り組まれていない点が課題である。</p>	<p>・学園組織として、規程担当部署を立ち上げる。</p>	

9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	1	<ul style="list-style-type: none"> ・サイトの運用に対する保護案は特に講じていない。 ・学生や教職員に対する個人情報保護に関する啓発なども、特に行われていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種データの扱いについて方針がないというのは大きな問題。添付ファイルで扱われるデータの開封方法（パスワードの扱い）なども、個人単位で一定したものはない。 		

9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	<p>■実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか</p> <p>□実施にかかる組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか</p> <p>□評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか</p>	2	<p>・学則には自己評価について規定されているものの、実施体制以下詳細については何ら決められていない。</p>	<p>・学校評価に関する外部研修などを受けた教職員がほとんどいない為、評価の実施はある意味“自己流”に留まっている。</p> <p>・自己評価の判断基準が特定個人の業務に委任されつつある。</p>	<p>・現職員の体制では、自己評価を組織的に行うことは不可能であり、特定個人の判断に委ねざるを得ない。</p>	
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	<p>■評価結果を報告書に取りまとめているか</p> <p>■評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか</p>	4	<p>・評価研究機構の書式にてとりまとめ、ホームページにて公開している。</p>	<p>・ここ数年は定期的に評価を行い、評価結果の公表を行っている。</p>		<p>・ホームページ</p>

<p>9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか</p>	<p><input type="checkbox"/>実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/>実施のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/>設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか <input type="checkbox"/>評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか</p>	<p>1</p>	<p>・将来的に学校を閉校する諸事情から、学校関係者評価委員会は開催していない。</p>			
<p>9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか</p>	<p><input type="checkbox"/>評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/>評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか</p>	<p>1</p>	<p>・将来的に学校を閉校する諸事情から、学校関係者評価委員会は開催していない。</p>			

9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	<p>■学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか</p> <p>■学生、保護者、関連業界等広く社会に公開しているか</p>	3	<p>・毎年4月に前年度の学校概要を取りまとめ、ホームページ上で、幅広く一般に公開している。</p>			<p>・ホームページ</p>

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
<p>10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</p>	<p>□産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか □企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか □国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか ■学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか □高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか □学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか □地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか □環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか □教職員・学生に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための研修、教育に取り組んでいるか</p>	<p>1</p>	<p>・かつて文科省の委託研究事業を受託した実績もあるが、ここ数年は行っていない。 ・学校施設は業界団体や卒業生等のネットワークを通じて広く一般に貸し出しており、各種研修などに積極的に活用されている。</p>	<p>・連携に関する方針・規程類及びそれに応じた組織体制もなく、かつての受託実績も、どのような経緯で行われたのか判然としない。 ・中高の職業教育への協力を含め、地域連携については教職員の明確な共通理解が必須であり、それに基づいて学科の年間計画に事前に組み込むなどの“仕組み化”が欠かせない。</p>	<p>・学校の責務の一つとして各種の連携の必要性を明確化し、教職員の職務の中に社会貢献・地域連携への取り組みを位置付けるところからはじめることとする。</p>	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流 に取組んでいる か	<input type="checkbox"/> 海外の教育機関との国際 交流の推進に関する方針を 定めているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と教職員 の人事交流・共同研究等を行 っているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と留学生 の受入れ、派遣、研修の実施 など交流を行っているか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れのため、学 修成果、教育目標を明確化 し、体系的な教育課程の編成 に取組んでいるか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れを促進す るために学校が行う教育課 程、教育内容・方法等につい て国内外に積極的に情報発 信を行っているか	1	<p>・海外との交流やその推 進に類するものは今のと ころ何も実施していな い。</p>			

10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input type="checkbox"/> 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を評価しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	1	<p>・職員数減少により、以前より行っていた江東区のボランティア活動は職員数の減少により、令和2年度より、専門学校から大学への運用に移管した。</p>			